

事務事業名		博物館展示事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登録事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登録事業			
政策体系	政策名	0 3 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間		予算科目			
	施策名	1 3 地域の歴史・文化資源の継承		区分		会計	款 項 目 事業		
	基本事業名	0 1 文化財の保存と活用		単年度繰返		01	10 04 05 0800		
根拠法令		博物館法		※期間欄に開始年度を記入					
所属	部課名	教育委員会博物館		【開始年度】		事務事業区分			
	課長名	伊藤 真紀子		昭和38 年度～		E 一般			
	係名	博物館	電話	0192-29-2161					
	担当者	佐藤 貴裕	内線	-					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)			
<p>・市民や基石海岸を訪れる観光客に対して、博物館資料を公開活用するための事業。</p> <p>・主な業務は、①常設展示の公開、②館内説明の実施、③展示資料及び展示設備の適正な維持管理、④常設展示資料の追加・更新、⑤たいけんコーナーの充実、⑥企画展示・特別陳列の実施、⑦企画展示図録の刊行。</p> <p>・事業費は、企画展示図録印刷費、企画展示・特別陳列消耗品費、展示資料借上謝金、展示用各種照明電球代、たいけんコーナー用消耗品などに支出される。</p>						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金	
							財源内訳	都道府県支出金	
								地方債	
								その他	
								一般財源	
								事業費計(A)	0
							人件費	正規職員従事人数	
	延べ業務時間								
	人件費計(B)	0							
	トータルコスト(A)+(B)	0							

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	
常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の維持管理、常設展示資料の追加・更新、特別陳列「新収蔵品展Ⅰ～なつかしの風景～」及び展示解説会、企画展「蛸ノ浦貝塚・下船渡貝塚 発掘物語」及び展示解説会、特別陳列「新収蔵品展Ⅱ～市民があつめた岩石と化石～」及び展示解説会の実施。東日本大震災津波に係る常設展示や津波石碑に関する展示を加えたほか、荒れ狂う海コーナー拡張やたいけんコーナー移設等の実施		ア	常設展示資料点数
			点
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	企画展示実施回数
常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の維持管理、常設展示資料の追加・更新、釣針展及び展示解説会、新収蔵品展及び展示解説会の実施。地震や津波の発生メカニズム、地形と津波災害等の展示を実施。		ウ	特別陳列、巡回・移動展示実施回数
			回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民 基石海岸を訪れる観光客		名称	
		カ	人口
			人
		キ	観光客入込数(基石海岸)
			人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		ク	
展示事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ	博物館入館者数
博物館資料が保存・活用される 次世代へ継承される		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	681	229	197	166	200	
		都道府県支出金	千円	2,681	786	583	0			
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	2,128	1,028	588	547	576	580	
		事業費計(A)	千円	4,809	2,495	1,400	744	742	780	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時間	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
		人件費計(B)	千円	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	11,209	8,895	7,800	7,144	7,142	7,180	
⑤ 活動指標	ア	点		1,506	1,506	1,506	1,506	1,506	1,506	
	イ	回		0	1	2	1	1	1	
	ウ	回		3	1	1	2	1	1	
⑥ 対象指標	カ	人		34,796	33,948	33,238	32,476	34,000	34,000	
	キ	人		71,868	64,862	77,041	100,303	100,000	100,000	
	ク									
⑦ 成果指標	サ	人		2,483	4,635	6,298	7,052	8,000	8,400	
	シ									
	ス									

事務事業ID	0898	事務事業名	博物館展示事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	昭和30年に大船渡市立科学館として発足、資料収集に着手し、昭和38年から一般公開を開始した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	常設展示は、昭和57年の新館開館から「大船渡 その海と大地」をテーマとし、映像展示室・地質展示室・考古民俗展示室の3室で公開を始めた。平成3～5年度に常設展示改修を実施し低年齢層向けの「たいけんコーナー」を加えて4室での公開となり、平成10・11年度には視聴覚設備更新と映像展示室のリニューアル、平成22・23年度にはプロジェクト・古生態復元図の更新、考古・民俗展示室の常設展示改修を実施した。平成30年度には東日本大震災津波映像「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡～」(多言語対応)を制作し、シアター等の視聴覚設備の更新を実施した。令和5年度には東日本大震災津波に係る常設展示や津波石碑に関する展示を加えたほか、荒れ狂う海コーナー拡張やたいけんコーナー移設等を実施して公開している。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> 市民から、市政懇談会において漁具以外の民俗資料の展示充実を提言されている。 団体入館者から、学芸員による常設展示等の説明を受けた際には展示資料への理解が深められると好評である。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由・内容 展示事業の推進は、博物館資料(文化財を含む)の公開・活用に結びついている。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由・内容 市の生涯学習施設である博物館が、展示事業を通して博物館資料(文化財を含む)を公開・活用することは、市の施策として妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由・内容 市民や碓石海岸を訪れる観光客に博物館資料を公開・活用する事業であり、対象・意図が適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由・内容 日常から調査研究の意識を持ちつつ、展示企画のテーマや資料の調査研究に余裕を持った期間を設定して実施することにより、さらに質の高い展示を企画する向上余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由・内容 資料を活用・公開する機会がなくなり、市民及び観光客の学びの場としての博物館機能が低下する。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由・内容 企画展示では、ポスターの手作りや解説パネルを再利用するなど経費削減に努めながら、最小限の経費で運用しており、削減余地がない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由・内容 費用を最小限にして市民の興味を喚起する展示を行うためには、事前の資料収集・調査研究をはじめとして企画内容の工夫などに専門職員(学芸員)が相当な時間をかけることはやむを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由・内容 一般の入館者からは入館料を徴収していることから、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
2 改革改善(縮小・統合含む)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×	より質の高い展示を企画するため、資料の収集保管活動とともに、調査研究活動に費やす時間を確保する努力をして、展示テーマ・展示資料の選定に結びつける。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	貝塚の国史跡指定の周年と関連付けるなど、機会を捉えて企画展示を積極的に開催している。SNS等を活用して情報発信を行い、県内外の専門家の関心を集めている。今後も計画的に調査研究を行い、より質の高い展示となるよう努めながら、市民や観光客、専門家など、より多くの来館者に当市の自然、文化の魅力を伝えられるよう情報発信にも努める必要がある。